

日本が誇る 世界自然遺産



現在、日本では「知床」「白神山地」「小笠原諸島」「屋久島」の4地域が世界自然遺産に登録されています。

これらの地域には、いずれも豊かな森林が存在しており、その9割以上は林野庁が直接管理する国有林野です。林野庁ではこれらの国有林野を森林生態系保護地域に設定し、地域住民や関係機関と連携しながら保安全管理を行っています。

また、新たに「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」を世界自然遺産として推薦しているところです。

やんばるの森 (沖縄島北部)

世界自然遺産推薦地

あまみ おしま とくのしま おきなわしま ほくぶ いりおもてしま

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

日本政府は、平成31年2月1日、世界遺産条約の事務局であるユネスコ世界遺産センターに推薦書を提出しました。

推薦地の森林には、アマミノクロウサギ、ヤンバルクイナ、イリオモテヤマネコなど多くの固有種や絶滅危惧種が生息しており、世界的にみても、極めて貴重な地域です。

推薦地の約7割を国有林野が占めており、林野庁九州森林管理局では、推薦地の国有林野内に生息・生育している希少種・固有種等の保護を図るため、生息状況などの調査、生息環境の維持のための巡視を行うなど、世界遺産一覧表への記載に向けて、また、将来的にも世界遺産の価値を保全できるよう、関係機関と連携して取組を行っています。

これらの地域については、令和2年夏頃に開催される世界遺産委員会において、登録の可否が決定される予定です。

概要

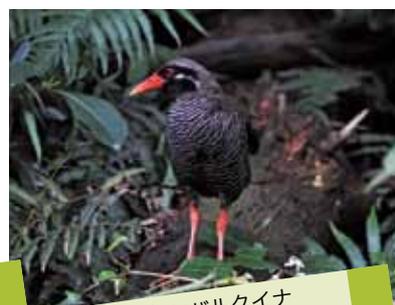
約1,200kmにわたって弧状に点在する琉球列島の一部であり、鹿児島県の奄美大島と徳之島、沖縄県の沖縄島北部と西表島の4つの地域で構成
推薦区域面積 426.98km²



ツマベニチョウ (沖縄島北部)



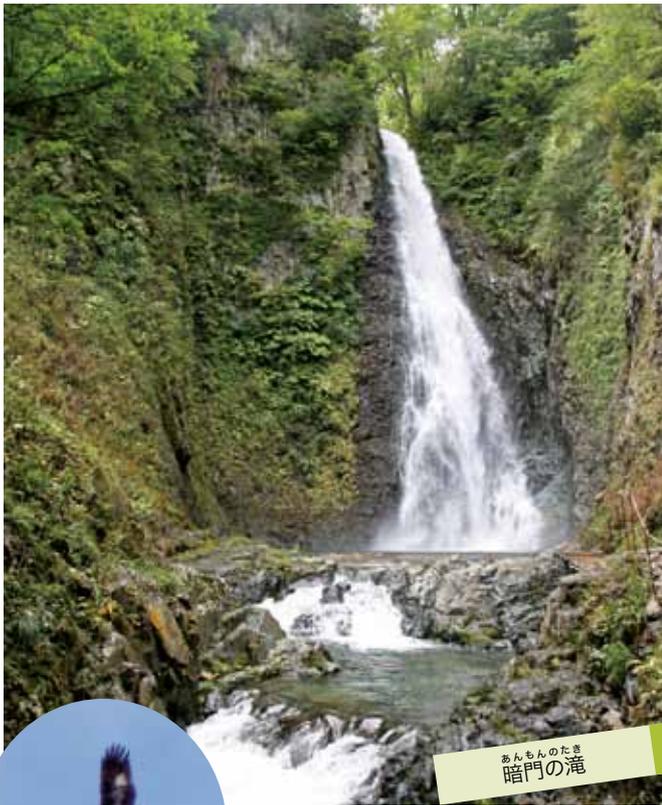
イリオモテヤマネコ (西表島)



ヤンバルクイナ (沖縄島北部)



ヒカゲヘゴ (奄美大島)



あんもんのたき
暗門の滝

しらかみさんち 白神山地

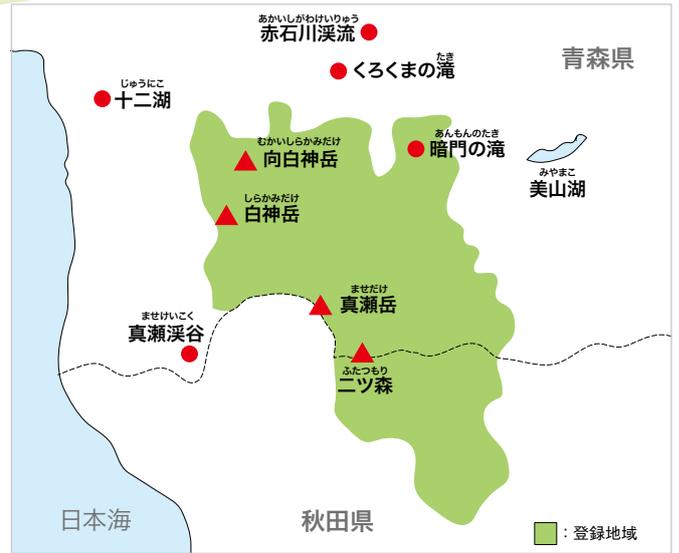
白神山地は、青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる山岳地帯の総称です。白神山地に広がるブナの原生林は東アジアで最大規模を誇り、約 12,000 ～ 8,000 年前から北日本の丘陵や山地を覆っていた冷温帯のブナ林が残存する、世界的にも珍しい地域です。

この地域は、比較的標高の低いところでも年平均気温が 9℃ 以下と低く、積雪量は 250cm 以上という気象条件にあります。このため、ブナやミズナラ、カエデ類などを中心とした冷温帯落葉広葉樹林が、山腹から山頂付近まで広く分布しており、局地的には、ミヤマナラ、ヒメヤシャブシ、キタゴヨウ、サワグルミなどを主とした森林が見られるほか、稜線部にはハイマツ帯も見られます。

動物としては、老齢林を含む多様な森林環境を必要とするクマゲラなどの鳥類、ニホンカモシカ、ツキノワグマ



むかいしらかみだけ
向白神岳



概要

平成 5 年登録
世界遺産評価基準：(ix) 生態系
青森県南西部と秋田県北西部の県境にまたがる山岳地帯
面積 169.71km²

などの大型哺乳類が生息しています。

遺産区域の全域が国有林野であり、林野庁東北森林管理局では、地域のボランティア巡視員、地元自治体などと連携し、入山者が多くなる 6～9 月に巡視活動や普及啓発活動などの保全管理を目的とした合同パトロールを実施しています。また、近年白神山地周辺で目撃されるようになったニホンジカについて、関係機関と連携して生息情報の把握を行うなど、白神山地を健全な状態で後世に引き継いでいくために様々な取組を行っています。



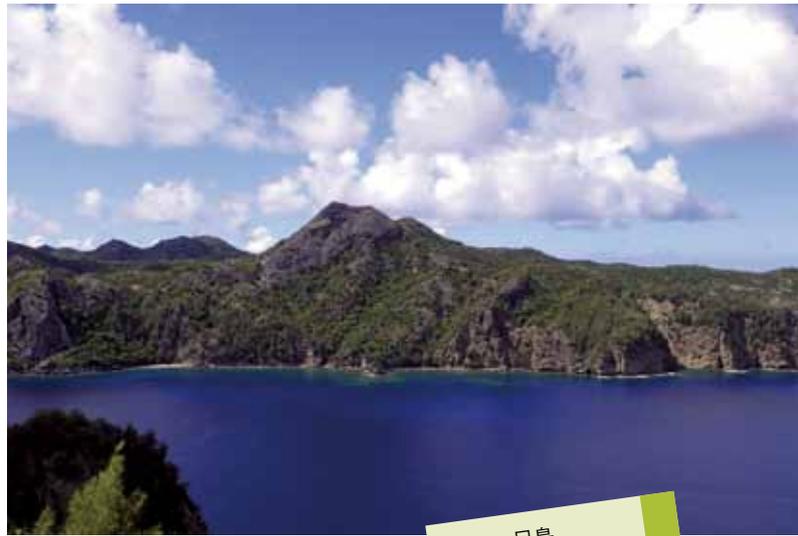
クマゲラ



ニホンカモシカ



奥赤石のブナ林



兄島



おがさわらしょとう 小笠原諸島

小笠原諸島は、日本の本土から約 1,000km 離れ、大陸と一度も陸続きになっただけの海洋島であり、動植物が独自の進化を遂げたことから、小笠原諸島でしか見られない固有種が数多く生息・生育しています。

森林については、ムニンヒメツバキやシマイスノキなど土壌の薄い乾燥した環境に適応した「乾性低木林」や、シマホルトノキなど土壌の発達した湿潤な環境に分布する「湿性高木林」に代表される、世界的に貴重な固有の樹種で構成される森林生態系が成立しています。鳥類ではアカガシラカラスバトやハハジマメグロなどが、また、小笠原諸島唯一の固有哺乳類としてオガサワラオオコウモリが生息しています。

小笠原諸島では、遺産区域の陸域の約 8 割を国有林が占めており、林野庁関東森林管理局では、外来種に対して脆弱で特異な生態系を守るため、固有種を含む在来種の生育地を奪うアカギなどの外来植物の駆除を行っています。また、父島の東平は、アカガシラカラスバトの重要な繁殖地となっており、「アカガシラカラスバトサンクチュアリー」を設定し、その保護に取り組んでいます。

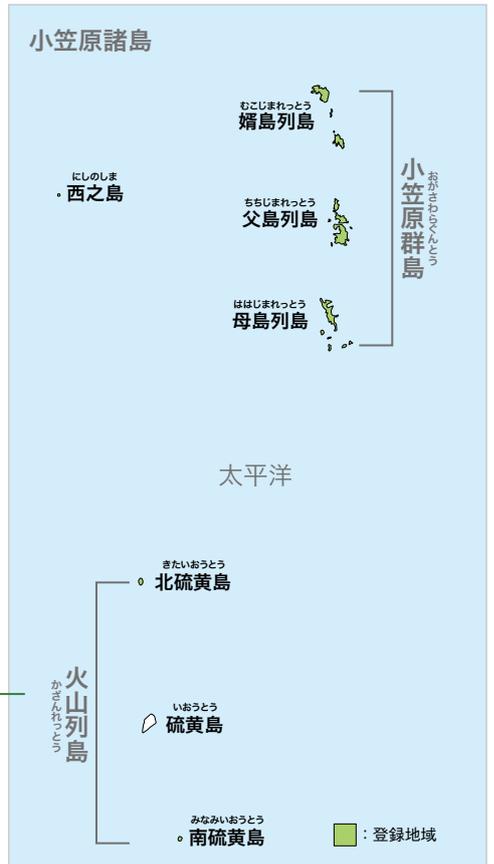
概要

平成 23 年登録

世界遺産評価基準：(ix) 生態系

小笠原諸島の陸域（一部の島と、父島及び母島の一部を除く）及び父島及び母島周辺の一部の海域

面積 79km²（陸域 64km²、海域 16km²）



アカガシラカラスバト



キノボリカタマイマイ



父島の乾性低木林



縄文杉



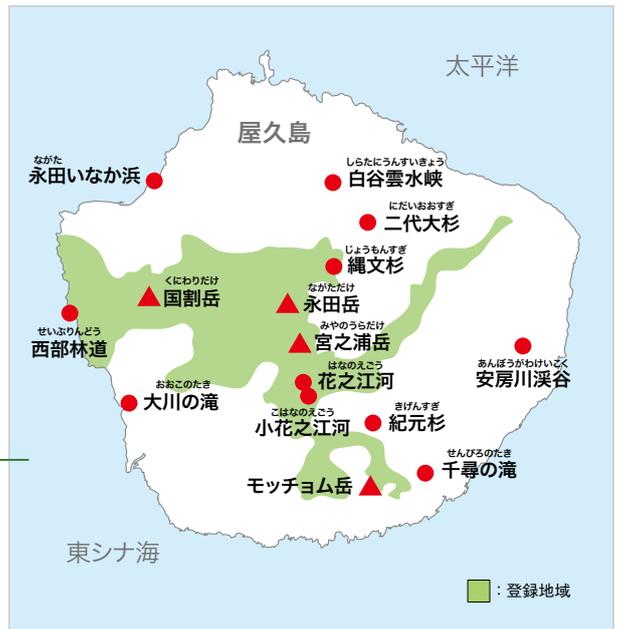
やくしま 屋久島

屋久島は、標高2,000mに迫る九州最高峰の宮之浦岳^{みやのうらだけ}を有し、亜熱帯性植物を含む海岸部の暖温帯から山頂付近の冷温帯や高層湿原に及ぶ典型的な植生の垂直分布が見られる北半球の温帯地域では他にほとんど例のない生態系を有しています。

また、年間降水量が8,000mmを超える多雨環境に適応した溪流植物や着生植物を豊富に含む特殊な生態系を有しており、樹齢1,000年を超えるヤクスギの原生的な天然林が作り出す世界的にも特異な景観が見られます。

そこには、ヤクシマダケ（ヤクザサ）やヤクシマリンドウなどの固有種が自生し、ヤクシカやヤクシマザル、ヤクシマカケスやヤクコマガラなど、多様な動植物が生息しています。

遺産区域の9割以上を国有林野が占めており、林野庁九州森林管理局では、森林のモニタリングや登山道沿いでの植生回復や衰退防止措置、巡視活動など様々な取組を行っています。



概要

平成5年登録

世界遺産評価基準：(Vii) 自然美・(IX) 生態系

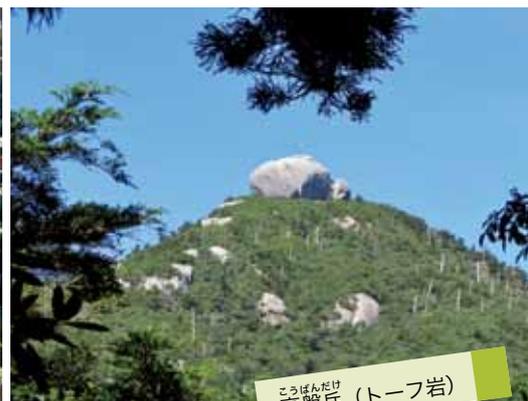
宮之浦岳を中心とした島の中央山岳地帯に加え西は国割岳^{くにわりだけ}を経て海岸部まで連続し、南はモッチョム岳、東は愛子岳^{あいこだけ}へ通じる山陵部^{さんりょうぶ}を含む区域面積 107.47km²



ヤクシカ



ヤクシマシャクナゲ



高盤岳 (トーフ岩)